

平成26年度事業報告書

特定非営利活動法人あんずぼこ

1. 活動の成果

- (1) 「フリースクール活動」・・・「学校より良く分かる」
学校に行っていないことによる勉強面での不安の解消に貢献しました。
元教員のスタッフが、マンツーマンで子どもの力に合わせて教えます。考える力をつけます。
高校生活を楽しまたいという生徒3人には、高校受験対策もして、無事合格しました。
- (2) 保護者の自助グループ活動・・・「うちだけではなかった」
保護者の交流会ではゲーム依存、昼夜逆転など、共通した不安が話題になりました。
「うちの子だけ」ではなかったことで、親が希望を持てたことが大きい。
会には、母親だけでなく父親も連れて参加され他の人の話を直接聞いて、
父親も変わっていった。
利用された保護者のほぼ100%がその後も利用されました。
- (3) 出合いの場の活動・・・手作りのピザ窯 「うわあーすごい！」
ピザパーティ（ピザ窯体験）では、火を燃やすこと、
ピザは生地もソースもすべて手作りで、
ピザ生地を伸ばして具材を乗せ、窯で焼く。
初体験に興奮しながら参加者は親くなりました。



2. 特定非営利活動に係る事業実績

(1) フリースクールの開校及び相談活動

年間159日 延べ利用者数306人
分担金収入 321,750円 面談収入148,500円

フリースクールを利用した中学生は9人。そのうちの6人が、この春「あんずぼこ」を無事巣立ちました。私立高校に3人が合格しました。3学年に進級し3人が学校に通い始めました。引き続き3人がフリースクールを利用しています。

相談活動では、保護者だけの相談が6件、成人の相談が2件、合計8ケースのべ82回の面談をしました。成人のケースは、高校を卒業してから3年あまり引きこもり状態だった若者A君のケースと、学校教員Bさんの相談でした。A君とは3年ほど前に出会い関わってきました。この春ついに家を出て、地方で大学生として新しい生活のスタートを切り、あんずぼこを巣立ちました。

(2) ピザ窯実習及び親の交流会

(親の会4回、ピザパーティ3回、パスタ実習1回) 合計8回 延べ利用者数74人
収益 49,500円



保護者交流会は5回延べ36人の利用でした。各回、3人～13名の参加があり自助グループとして機能しました。初めて参加した人は「他の皆さんの話を聞き、少し安心した」と述べ、その後、子どもへの接し方が随分変わったと言われます。子どもも少しずつ良い動きがみられるようになっていきます。月単位、年単位で振り返ると、親も子どももだんだん自然体になっていくのがよく分かります。

料理教室1回（7人参加）とピザ窯体験を3回（4人～18人参加）、延べ38人の参加でした。特に野外でのピザパーティは、お近づきの良い機会が提供できました。

3. 事業実施体制

(1) 会議に関する事項

理事会 2回

8月 出席者3名 利用分担金についての確認と利用計画案について

12月 出席者5名 今年度の中間報告としての活動報告

(2) 事務局体制

事務局長：河村夏代、事務局スタッフ：松嶋洋子

(3) 事業実施ボランティアスタッフ

指導スタッフ

松嶋洋子、村上栄子、河村夏代、鶴山実紀子、熊倉修、河村央也

その他行事スタッフ 森尚子、村田智子、松田和子、松嶋洋子、村上栄子、河村夏代

(4) 会員

正会員 10名

賛助会員 20名

(5) ボランティア6名

4. その他

神戸新聞社より活動している様子の取材を受けました。

その後、新聞記事を見て、親の交流会に5名が新たに参加しました。フリースクールの利用をはじめた生徒もいて、5ヶ月の利用の後、4月より学校に通っています。

4年(平成26年)10月31日 金曜日 神戸 わがまち 30

不登校の親子の支えに

西宮のNPO「教室」を開設
元教諭ら、経験生かし助言



不登校の子どもたちを支援しようと、阪神地域の元学校教諭らでつくるNPO法人「あんずぼこ」(西宮市)が、同市内に勉強をしたりカウンセリングを受けたりできる場を開

設した。学校に行けない原因はどこにあるのか、疲れてしまった子どもの本音は…。元教諭ならではの経験を生かし、学習指導に加え、悩む保護者にもアドバイス。親子の心のよりどころとなっている。

思春期の子どもたちを対象にした「あんずぼこ」甲陽園教室(同市甲陽園西山町2)。

現在、近隣の中高生5人を3人のスタッフが支援している。

理事長の河村夏代さん(63)は芦屋市立中学で14年間教壇に立った後、私立校でも教えた。臨床心理士の資格を持ち、現在は阪神地区でスクールカウンセラーを務めている。

「不登校になる状況は多様。長期化させないためにも早い対策が必要で、しっかりと向き合える場所が必要だった」と話す。

支援を受けた女子生徒の母親は「自分の子どもが不登校になるなんて、とショックで自分を責めた。娘の気持ちが見えなくなり焦ったが、ここに来て親子で自信を取り戻した」といい、現在娘は学校に通っている。

西宮市内から通う中3の男子生徒は「学校は校則をはじめ、納得できないことが多い。ここがなければ昼夜逆転になっていた」と語る。

「焦らず、諦めず、親子の話にじっくり耳を傾け、アドバイスをくれる河村夏代理事長(中央)」。西宮市甲陽園西山町2

関わっていききたい」と河村さん。11月2日午後1時から、同教室で保護者交流会を開く。

5000円。☎0798・78・2498(月～金曜、午前10時～午後3時)。(鈴木久仁子)